

令和6年度 厚労科研 大西班

➤ 研究テーマ

放射線治療提供体制における「看護モデルの構築」

—認定看護師(CN)の効果的・効率的な活動のあり方—

➤ 研究分担者

草間朋子(東京医療保健大学 名誉教授)

➤ 研究協力者

有阪光恵(東京ベイ・浦安市川医療センター)、加藤知子(東邦大学)、
菊野直子(東京医療センター)、畑清子(埼玉医科大学国際医療センター)
三上恵子(量子科学技術研究開発機構)、萬篤憲(東京医療センター)

➤ 研究目的と方法

- ①質問紙調査を通して現状分析を行う
- ②課題を明らかにする
- ③課題解決の道筋を見出す

➤ 質問紙調査(2023年6月1日～8月30日)

がん放射線療法看護認定看護師(CN)が配置されている266病院の

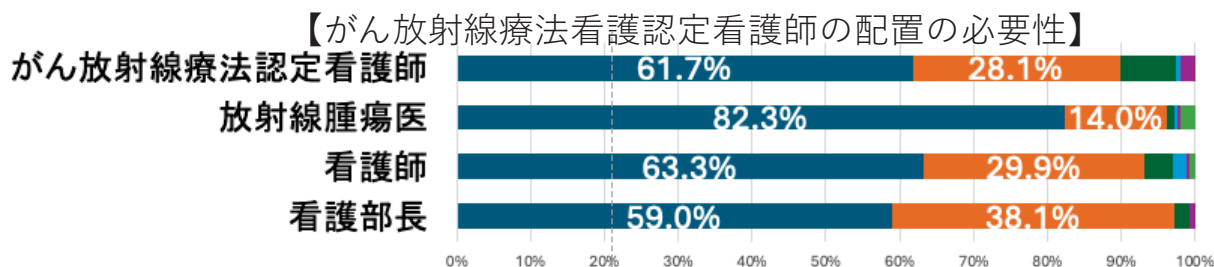
①看護部長、②放射線腫瘍医、③看護師、④認定看護師(CN)
を対象に、認定看護師の活動実態についての意見等

➤ 質問紙調査の結果

174病院から質問紙が返送:回収率:65.4%)

職種ごとの質問紙への回答者数

・看護部長;139名 ・放射線腫瘍医;350名 ・看護師;566名 ・認定看護師;196名



【認定看護師としての活動ができているか】

	n	%
役割を発揮することができる	55	28.1%
満足のいく実践活動ができていない	139	70.9%
無回答	2	1.0%

➤ 認定看護師の活動等に対する意見・提案(896個)

CN:174個 放射線腫瘍医:310個 看護師:311個 看護部長:101個

【主な意見等】

- ・ CNは、1施設あたり一人配置が大部分であり、放射線治療室(外来)に配置されている。
- ・ CNが、CNとしての役割に専念できている施設は少ない
看護師が不足しており、看護師業務に追われている
管理職(師長など)を兼任しており、CNの業務に専念できていない
- ・ 看護部長/病院管理者が認定看護師の役割等を理解していない
- ・ 病棟の看護師との情報交換ができていない
- ・ CNの存在を知らないスタッフ(医師、看護師)が多い。
- ・ 放射線治療室が、病棟や一般外来から位置的に離れている。
- ・ 放射線治療チーム(放射線腫瘍医、主治医、診療放射線技師、医学物理士)間の情報共有ができていない。
- ・ 放射線治療患者を理解していないスタッフがいる(放射線治療患者は手がかからない、ケアが必要ないなど)。
- ・ 施設基準や診療報酬の要件と現場の実態とが乖離している。

【看護モデル構築に向けての提案】

- ・ CNの活動の見える化を図る
- ・ 施設基準、診療報酬の要件の見直し